

付表①① 中国人慰安婦・戦時性暴力に関する日本語文献一覧①

①

1 ①資料集①

No(編者(「論文タイトル」(『雑誌名』巻号(発行年月(
		『書籍タイトル』(発行所(
1(吉見義明(『従軍慰安婦資料集』(大月書店(1992.11(
2((『政府調査「従軍慰安婦」関係資料集成』全5巻(龍溪書舎(1998.7(

①

2 ①一般①

No(著者(「論文タイトル」(『雑誌名』巻号(発行年月(
		『書籍タイトル』(発行所(
3(倉橋正直(『従軍慰安婦問題の歴史的研究』(共栄書房(1994.8(
4(吉見義明(『従軍慰安婦』(岩波書店(1995.4(
5(藤井忠俊(「中国占領地における徴集と慰安所の展開」(大月書店(1995.8(
		(吉見・林編『共同研究日本軍慰安婦』所収)(
6(西野瑠美子(「中国「慰安婦」と日本の責任」(2)(『法と民主主義』312(1996.10(
7(笠原十九司(「中国戦線における日本軍の性犯罪」(『戦争責任研究』13(1996 秋季(
8(桑山紀彦(「中国人元「慰安婦」の心的外傷とPTSD」(『戦争責任研究』19(1998 春季(
9(秦郁彦(『慰安婦と戦場の性』(新潮社(1999.6(
10(林伯耀(「天津の日本軍『慰安婦』供出システム—偽『天津特別市政府』警察局の公文書資料から」(『女性・戦争・人権』2所収)(行路社(1999(
11(林博史(「中国での慰安所現地調査について」(『戦争責任研究』27(2000 春季(
12(西野瑠美子(「上海の慰安所・現地調査報告」(『戦争責任研究』27(2000 春季(
13(川田文子(「南京レイプと南京の慰安所」(『戦争責任研究』27(2000 春季(
14(蘇智良(「“慰安婦”の緊急調査」(『戦争責任研究』27(2000 春季(
15(尹明淑(「中国人軍隊慰安婦問題に関する研究ノート」(『戦争責任研究』27(2000 春季(
16(吉見義明(「南京・上海の慰安所と上海派遣軍軍医部」(『戦争責任研究』27(2000 春季(
17(内海愛子(「戦時性暴力と東京裁判」(日本軍性奴隷制を裁く—2000年女性国際戦犯法廷の記録第1巻『戦犯裁判と性暴力』所収)(緑風出版(2000.5(
18(本澤二郎(「中国初の“慰安婦”国際シンポジウム」(『マスコミ市民』378(2000.6(
19(経盛鴻(「南京の慰安婦と慰安所」(『戦争責任研究』28(2000 夏季(
20(宋連玉(「上海での中国「慰安婦」問題国際シンポジウムに参加して」(『戦争責任研究』28(2000 夏季(
21(松井やより(「「女性国際戦犯法廷」をなぜ開くのか」(『戦争責任研究』28(2000 夏季(
22(陳麗菲・蘇智良(「中国の慰安所に関する調査報告」(日本軍性奴隷制を裁く—2000年女性国際戦犯法廷の記録第4巻『「慰安婦」・戦時性暴力の実態II』所収)(緑風出版(2000.12(

23(松岡環(「南京大虐殺下における日本軍の性暴力」(同上)(緑風出版(2000.12(
24(林伯耀・張友棟編・訳(「天津の日本軍「慰安婦」供出システム」(同上)(緑風出版(2000.12(
25(西野瑠美子(中国における慰安所設置と「慰安婦」徴集(同上)(緑風出版(2000.12(
26(笠原十九司(日本軍による性暴力の構造(同上)(緑風出版(2000.12(
27(袁竹林(「ある慰安婦の証言(『華月月報』1999年8月号より)」(『中国女性史研究』10(2001.1(
28(吉見義明(「日本軍性奴隷(「従軍慰安婦」)制度研究の現段階」(『戦争責任研究』38(2002 冬季(
29(西野瑠美子(「中国に疼く「慰安婦」の歴史」(『新日本文学』58-3(2003.4(
30(笠原十九司(「中国の前線における日本軍兵士の意識」(『戦争責任研究』43(2004 春季(
31(高嶋航(「中国における「慰安婦」研究の現在」(『史林』88-1(2005.1(
32(吉見義明(「南京事件前後における軍慰安所の設置と運営」(『現代歴史学と南京事件』所収)(柏書房(2006.3(
33(川田文子(「南京レイプと南京の慰安所」(同上)(柏書房(2006.3(
34(吉見義明(「強制」の史実を否定することは許されない」(『世界』765(2007.5(
35(吉見義明(「米下院「慰安婦」決議案と河野談話」(『戦争責任研究』56(2007 夏季(
36(川田文子(東京裁判で証言された南京レイプ(『戦争責任研究』58(2007 冬季(
37(糟谷廣一郎(「[中国・桂林ルポルタージュ]私は“日本鬼子”の子」(『慰安婦 強制連行』所収)(金曜日(2008.6(
38((資料紹介「東京裁判と性暴力—中国とフィリピンを例に」(『戦争責任研究』61(2008 秋季(
39((『ある日、日本軍がやってきた—中国・戦場での強かんと慰安所』(アクティブ・ミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」(2008(
40(吉見義明(「「従軍慰安婦」問題研究の到達点と課題」(『歴史学研究』849(2009.1(
41(吉見義明(「日本軍「慰安婦」問題について」(『戦争責任研究』64(2009 夏季(
42(倉橋正直(「中国戦線に形成された日本人町—従軍慰安婦問題補論」(『キリスト教社会問題研究』58(2010.1(
43(天兒都・麻生徹男(『慰安婦と医療の係わりについて』(梓書院(2010.4(
44(吉見義明(「吉見義明教授から橋本徹市長への公開質問状(吉見義明教授インタビュー)」(『中帰連』53(2013.10(
45(吉見義明(「日本軍「慰安婦」制度の本質は何か」(『日本の科学者』50-1(2015.1(

①

①

3①慰安婦裁判関係①

No(著者(「論文タイトル」(『書籍タイトル』(『雑誌名』巻号(発行所(発行年月(
46(安達洋子(「中国人元「慰安婦」を迎えて」(『歴史地理教育』557(1996.12(
47(大森典子(「中国人「慰安婦」訴訟」(『戦争責任研究』15(1997 春季(
48(大森典子(「元「慰安婦」たちの訴訟(中国)」(『法学セミナー』512(1997.8(

49((「集会から(中国人慰安婦裁判原告侯巧蓮さんの話を聞く会ほか) (『あごら』242(1998.8(
50(吉池俊子(『私の頭は壊れてしまった…』中国人「慰安婦」裁判原告侯巧蓮さん(『女たちの21世紀』17(1999.1(
51(石田米子(「中国・山西省10人の女性の「打官司(提訴)」とその性暴力の性格(『女たちの21世紀』17(1999.1(
52(康健(「中国戦争被害者(元「従軍慰安婦」及び強制連行労工の対日賠償請求事件における法的支援に関わる活動概況について) (『法と民主主義』339(1999.6(
53(中国人「慰安婦」訴訟弁護団等編(『その勇気を無駄にしないで—中国山西省での性暴力被害者の証言・訴状(同弁護団(1999(
54(坂口禎彦(「中国人「慰安婦」第1次訴訟東京地裁判決批判(『戦争責任研究』33(2001 秋季(
55(小俣光子(「黄土高原の小さな村の性暴力—中国山西省性暴力被害者の訴え」1~5(『あごら』298,299,(300,302,304(2004.10~2006.1(
56(川口和子他(「山西省性暴力被害者裁判と関連する活動」(『戦争責任研究』47(2005 春季(
57(大森典子・安達洋子(「中国人「慰安婦」訴訟の10年を振り返って」(『戦争責任研究』47(2005 春季(
58(山手治之(「中国人「慰安婦」二次訴訟東京高裁判決について」(『立命館法学』(300/301(2005(
59(金子美晴(「海南島元「慰安婦」たちの闘い」(『中帰連』36(2006.春(
60(坂口禎彦(「中国人慰安婦訴訟・海南島事件」(『軍縮問題資料』313(2006.12(
61(大森典子(「中国人「慰安婦」訴訟と山西省性暴力被害者訴訟」(『軍縮問題資料』314(2007.1(
62(川上詩朗(「中国人「慰安婦」第二次訴訟の最高裁判決と今後の闘い」(『軍縮問題資料』321(2007.8(
63(坪川宏子(編集・解説)	資料紹介「日本の裁判所が認定した日本軍「慰安婦」の被害事実」(上)(下) (『戦争責任研究』56,57(2007 夏季(
64(大森典子(『歴史の事実と向き合って—中国人「慰安婦」被害者とともに』(新日本出版社(2008.12(
65(藍谷邦雄(「「慰安婦」裁判の経過と結果およびその後の動向」(『歴史学研究』849(2009.1(
66(大谷猛夫(「中国人戦争被害者が国と企業を訴えた裁判の現状と支援の動き」(『戦争責任研究』64(2009 夏季(
67(金子美晴(「中国海南島における戦時性暴力被害と裁判及びその支援について」(『戦争責任研究』64(2009 夏季(
68(坂口禎彦(「判決報告「中国・海南島戦時性暴力被害者訴訟」」(『軍縮問題資料』358(2010.10(
69(坪川宏子・大森典子(『司法が認定した日本軍「慰安婦」』(かもがわ出版(2011.12(

①

①

4 ①山西省性暴力関係①

No(著者(「論文タイトル」(『書籍タイトル』(雑誌名・巻号(発行所(発行年月(
70(万愛花(「私は日本軍が死ぬほど憎い」(『世界に問われる日本の戦後処理①「従軍慰安婦」等国際公聴会の記録』所収)(東方出版(1993.5(
71(班忠義(「中国人「元慰安婦」たちが語る真実」(『週刊金曜日』4-30(1996.8.9(
72(秦郁彦(「慰安婦「身の上話」を徹底検証する」(『諸君!』28-12(1996.12(
73(林博史(「中国人元「慰安婦」の証言」(『戦争責任研究』15(1997 春季(
74(笠原十九司(「日本軍の残虐行為と性犯罪」(『戦争責任研究』17(1997 秋季(
75(藤原彰(「三光作戦」と北支那方面軍」(1)(2)(『戦争責任研究』20(1998 夏季(
			(((((21(
76(桑山紀彦(「中国山西省(性暴力被害者におけるPTSDの検証(第2次報告」(『戦争責任研究』25(1999 秋季(
77(石田米子(「記録されない記憶—山西省における戦争被害調査・記述の中の性暴力」(『芝蘭集—好並隆司先生退官記念論文集』所収)((1999(
78(石田米子(「中国華北の戦場における日本軍の性暴力の構造—山西省の現地調査から見えてくるもの」(『女性・戦争・人権』2所収)(行路社(1999(
79(石田米子・大森典子(「中国山西省における日本軍性暴力の実態」(日本軍性奴隷制を裁く—2000年女性国際戦犯法廷の記録第4巻『「慰安婦」・戦時性暴力の実態II』)(緑風出版(2000.12(
80(石田米子(「講演記録 中国山西省における日本軍性暴力に関する調査について」(『人文研究』144(2001(
81(石田米子(「中国における日本軍性暴力被害の調査・記録に取りくんで」(『中国女性史研究』11(2002.1(
82(石田米子・内田知行編(『黄土の村の性暴力—大娘たちの戦争は終わらない』(創土社(2004.4(
83(石田米子(「沈黙を強いる構造と自尊感情を回復する関係」(『岡山部落解放研究所紀要』13(2004(
84(内海愛子・石田米子・加藤修弘編(『ある日本兵の二つの戦場—近藤一の終わらない戦争』(社会評論社(2005.1(
85(石田米子(「中国農村における聞き取りから見えた戦時性暴力の構造」(『鳴門史学』18(2005(
86(小濱正子(「口述史料を利用した中国近現代史研究の可能性—山西省孟縣の日本軍性暴力研究をめぐって」(『東洋史研究』64-2(2005.9(
87(青木茂(『日本軍兵士・近藤一 忘れえぬ戦争を生きる』(風媒社(2006.3(
88(班忠義(『ガイサンシーとその姉妹たち』(梨の木舎(2006.9(
89(倉橋綾子(「私たちをつかんで離さない「過去」」(『世界』765(2007.5(
90(班忠義(「中国人「慰安婦」の知られざる人生を追って—班忠義監督に聞く」(『女性のひろば』345(2007.11(

91(内田知行(「中国における戦時性暴力をめぐる記憶と記録」 『戦争と民衆』所収) (旬報社(2008.4(
92(石田米子(「中国における日本軍性暴力被害の調査・記録に 取りくんで」(『新編日本のフェミニズム10』所収) (岩波書店(2009.2(
93(松本栄好(「証言(私を侵略戦争に突き進ませたものは 何か) (『神奈川支部情報』17(2010.6(
94(石田米子(「活動と交流 八路軍記念館での性暴力パネル展 開催顛末」(『中国女性史研究』20(2011.2(
95(松本栄好(「私が中国で戦った「聖戦」の実態」(『子どもの とき戦争があった』所収) (いのちのこば社(2011.8(
94(近藤一・宮城 道良(『最前線兵士が見た「中国戦線・沖縄戦の実相』(学習の友社(2011.9(
95(江上幸子(『黄土の村の性暴力—大娘たちの戦争は終わら ない』共振する丁玲の小説と) (『戦争責任研究』74(2011 冬季(
96(田宮昌子(「山西省孟県仙人村調査報告—「個人史から考 える日中近現代関係史」の一環として) (『宮崎公立大学人文 学部紀要』19-1(2011(
97(石田米子(「日本軍性暴力を中国農村の被害女性から考 える—「慰安婦」と呼ばれることを拒否し続けた万 愛花さん」(『中帰連』53(2013.10(
98(ケネディ日 砂恵(「必ず出てくる「第二の吉田清治」(『WILL』121(2015.1(
99(班忠義(『声なき人たちに光を—旧軍人と中国人“慰安 婦”の20年間の記録』(いのちのこば社(2015.9(
100(班忠義(「ドキュメンタリー映画『太陽がほしい』中国人 被害者の証言の伝達者として) (『女性のひろば』440(2015.10(
101(班忠義(『太陽がほしい—「慰安婦」とよばれた中国人女 性たちの人生の記録』(合同出版(2016.3(

①

5①海南島性暴力関係①

No(著者(「論文タイトル」(雑誌名・巻号(発行年月(
		『書籍タイトル』(発行所(
102(西野瑠美子(「私が見た海南島海軍病院の「慰安婦」たち—元 海軍従軍看護婦の体験」(『週刊金曜日』5-19(1997.5.23(
103(班忠義(「中国・海南島の元「慰安婦」たち」(『週刊金曜日』5-24(1997.6.27(
104(藤原彰(「海南島における日本海軍の「三光作戦」(『戦争責任研究』24(1999 夏季(
105(紀州鉦山の 真実を明ら かにする会(『海南島で日本はなにをしたのか—虐殺・略奪・ 性奴隷化、抗日反日闘争』(写真の会パトローネ(2005.5(
106(文公輝(「日本による海南島軍事占領について」(『大阪人権博物館紀 要』9(2006(
107(斉藤日出治(「海南島における住民虐殺と統治政策」(『大阪産業大学経済 論集』12-1(2010.9(

108	斉藤日出治	「日本軍による海南島の侵略犯罪に関する調査報告」	『大阪産業大学経済論集』14-1	2013.2
109	斉藤日出治	「日本軍統治下の海南島における侵略犯罪の調査報告」	『大阪産業大学経済論集』15-1	2014.3

①

6 ①戦犯供述書・中帰連関係①

No	著者	「論文タイトル」 『書籍タイトル』	雑誌名・巻号 発行所	発行年月
110	中国帰還者 連絡会会員	「座談会「従軍慰安婦」を語る」	『中帰連』5	1998.6
111		「中国の「慰安婦」問題雑感」	『中帰連』5	1998.6
112	川田文子	「中国戦犯供述書にみる日本軍の性暴力」	『戦争責任研究』23	1999 春季
113	康健	「中国人元「慰安婦」被害事実調査」	『戦争責任研究』71	2011 春季

①